

障害のある労働者の職業サイクルに関する 調査研究（第8期 調査最終期）



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター研究部門
社会的支援部門

稲田 祐子
野口 洋平

武澤 友広
田川 史朗

堀 宏隆
山中 美穂子

調査研究の概要

調査の目的

- 多様な障害者を対象とした長期縦断調査（パネル調査）により、職業サイクルの全過程にわたる状況を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得る

【職業サイクル】とは

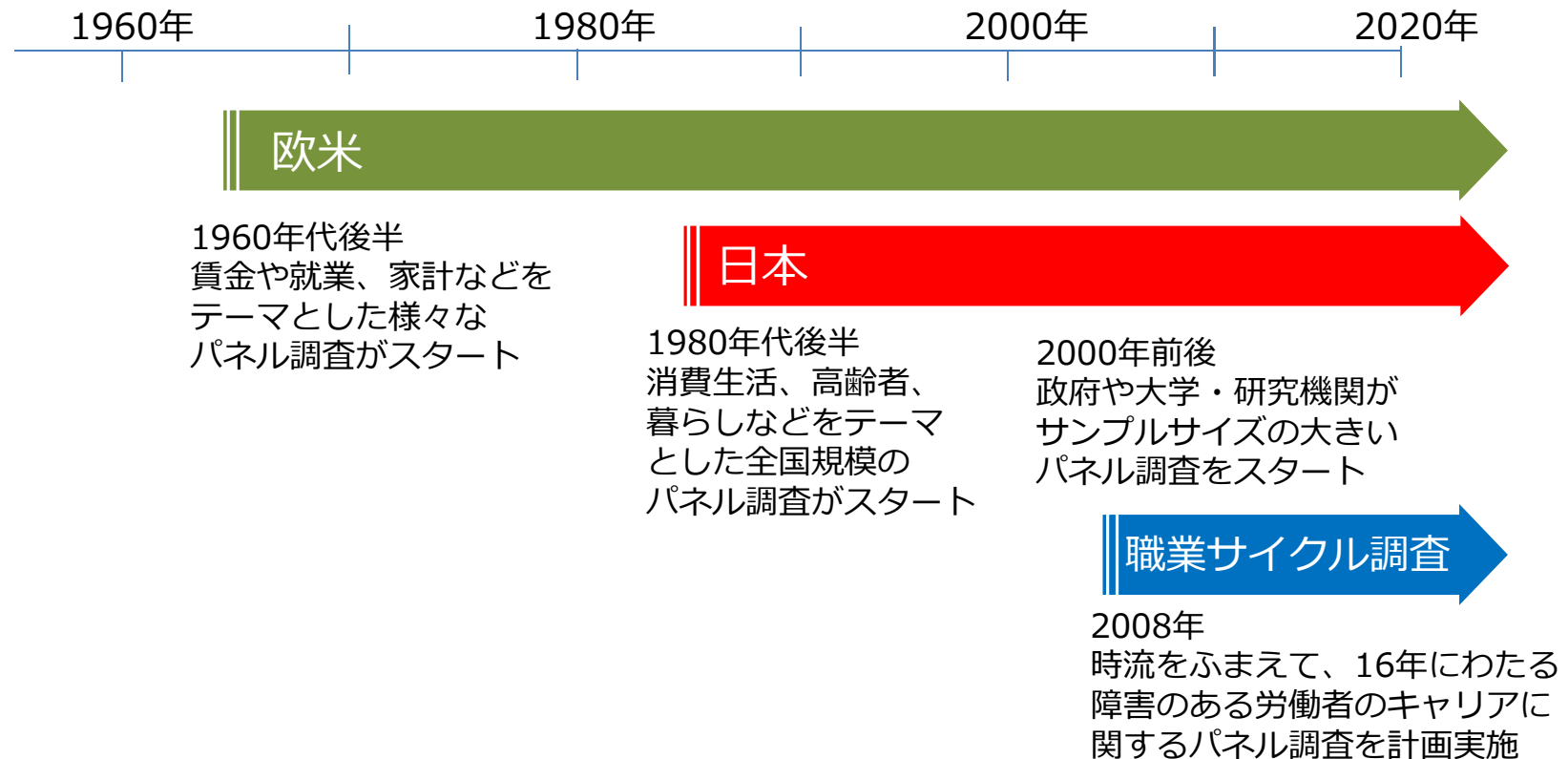
職業人生における就職、就業の継続、休職や復職、離職や再就職、キャリア形成、そして職業人生からの引退に至る多くの労働者に共通する体験の全体をとらえた造語

パネル調査について

■ パネル調査とは

- 同じ対象者に一定間隔で同じ質問をたずねる調査方法

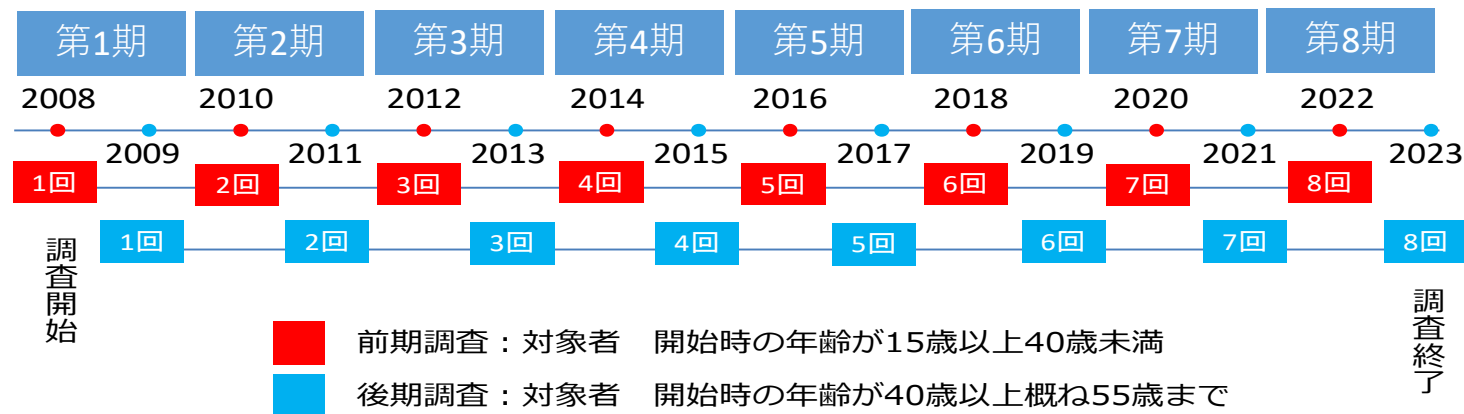
■ パネル調査の歴史



本研究のパネル調査

■ 調査期間

- 2008年から2023年まで16年間、前期調査、後期調査に分けて2年ごとに調査を実施



■ 対象とする障害の種類

- 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害

調査対象者

■ 対象者

- 企業や自営業で週20時間以上働いている障害のある労働者
- 途中離職があっても調査を継続して、キャリア形成の状況を確認
- （調査開始時）15歳から概ね55歳までの幅広い年齢層の障害者

■ 募集方法

- 各障害の当事者団体や家族団体、障害者を多数雇用する事業所、就労支援施設等を通じて対象者を募集
- 調査の趣旨を説明し、同意が得られた場合に調査対象者として登録

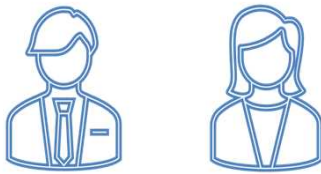
■ 対象者数

- 時間経過とともに追跡不能となり減少するため、第3期に調査対象者の補充を行った
- 当初対象者数 1,026人 + 第3期補充数 241人 = 1,267人

調査内容

■ 職業生活について幅広く確認

対象者の基本属性



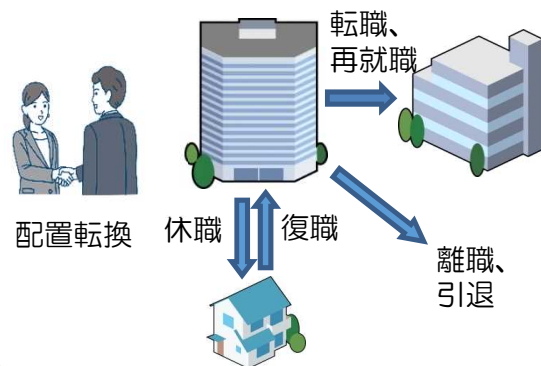
障害種類 年齢
性別 家族構成 etc.

就労状況



就業形態
職務内容
労働条件
etc.

仕事上の出来事



仕事に関する意識



仕事の満足度
仕事の内容
給料や待遇
職場の人間関係
職場の環境

配慮に関する希望
etc.

■ その他

- ・ 生活上の出来事
結婚、子どもの誕生
転居等
- ・ 偶数期のみの質問
地域生活や体調や
健康に関する質問等
- ・ 奇数期のみの質問
経済的なことに
関する質問等

本報告書の概要

パネル調査の特徴を活かした分析

**第1期から第8期までの全調査が完了
パネル調査の利点を活かした分析を実施**

■ 障害のある労働者の職業サイクル全般の単純集計

- 障害のある労働者の職業生活が年齢や時代とともにどう変化したか、出生年代に分けて経時的変化を追跡

■ 中高年期における障害の重度化が働き方等に与える影響

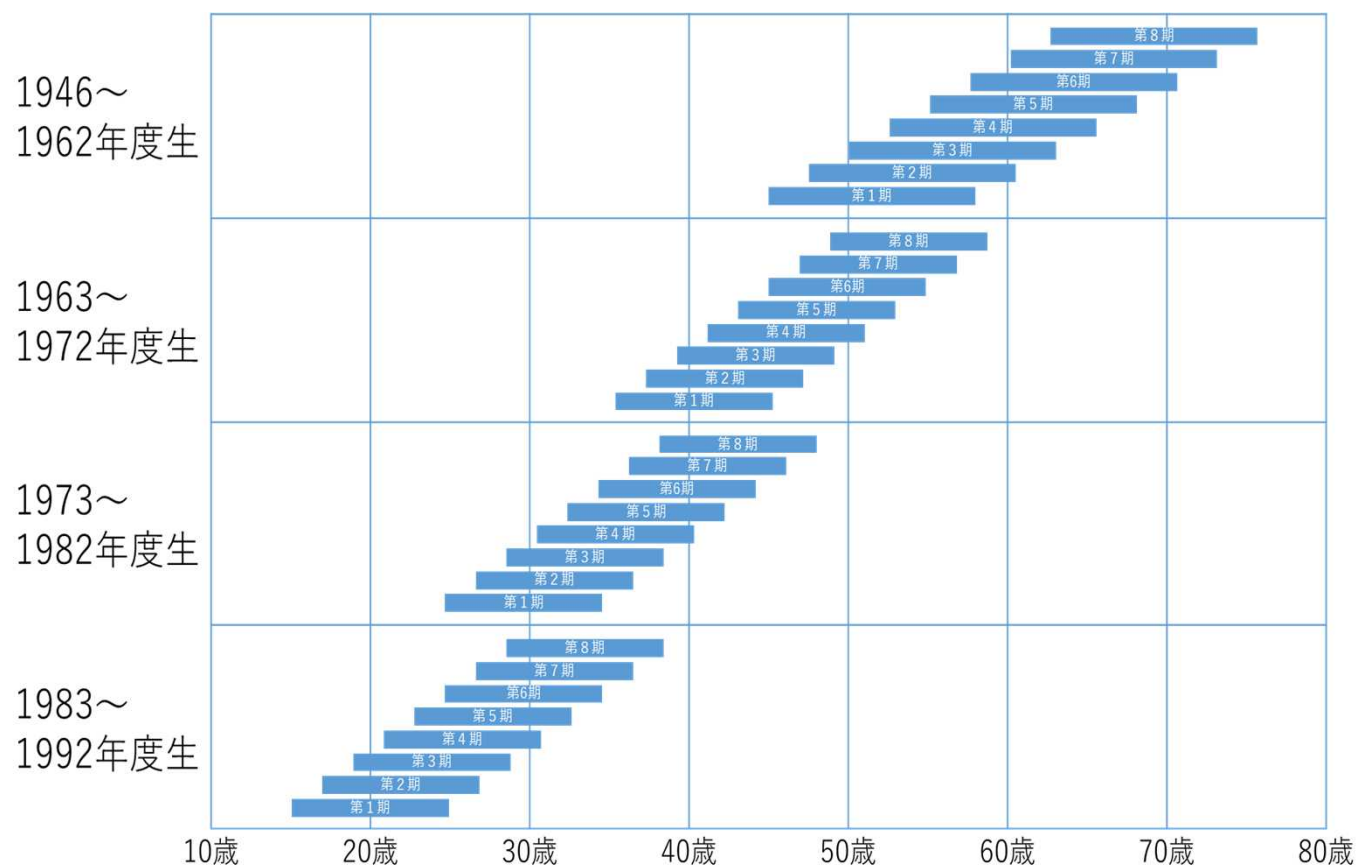
- 一人の人を追跡し、障害の重度化や働き方の変化、配慮事項の変化を分析

■ 大きな社会情勢の変化の影響についての分析

- 東日本大震災と新型コロナウイルス感染症の影響についてアンケートの自由記述を中心に分析

世代別の調査各期の年齢の推移

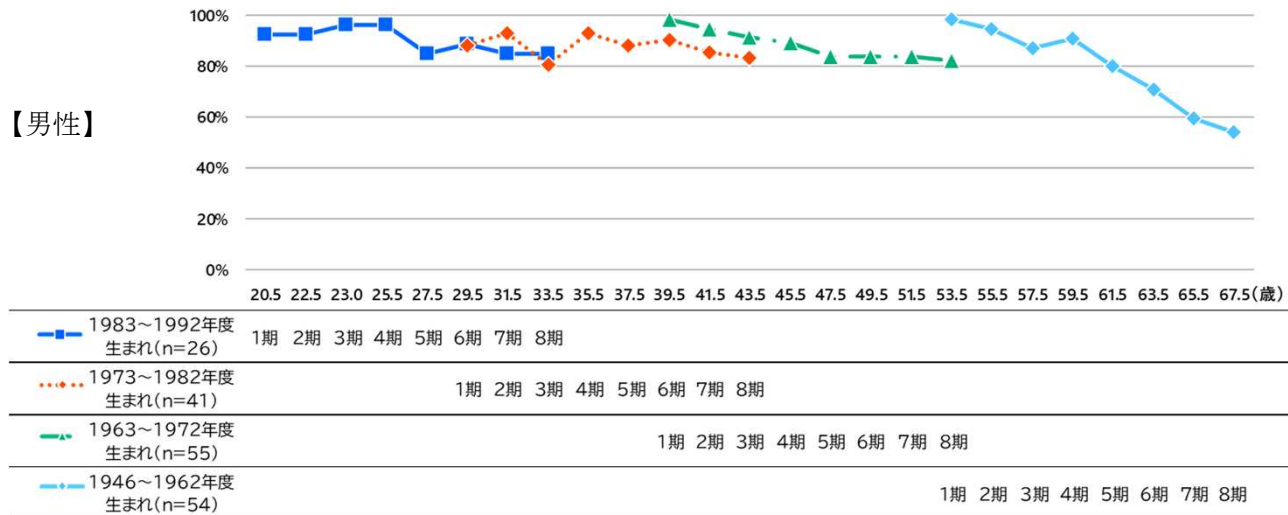
4世代でそれぞれ14年間を追跡することによりおおよそ10代後半から60代の職業人生の全体をカバー



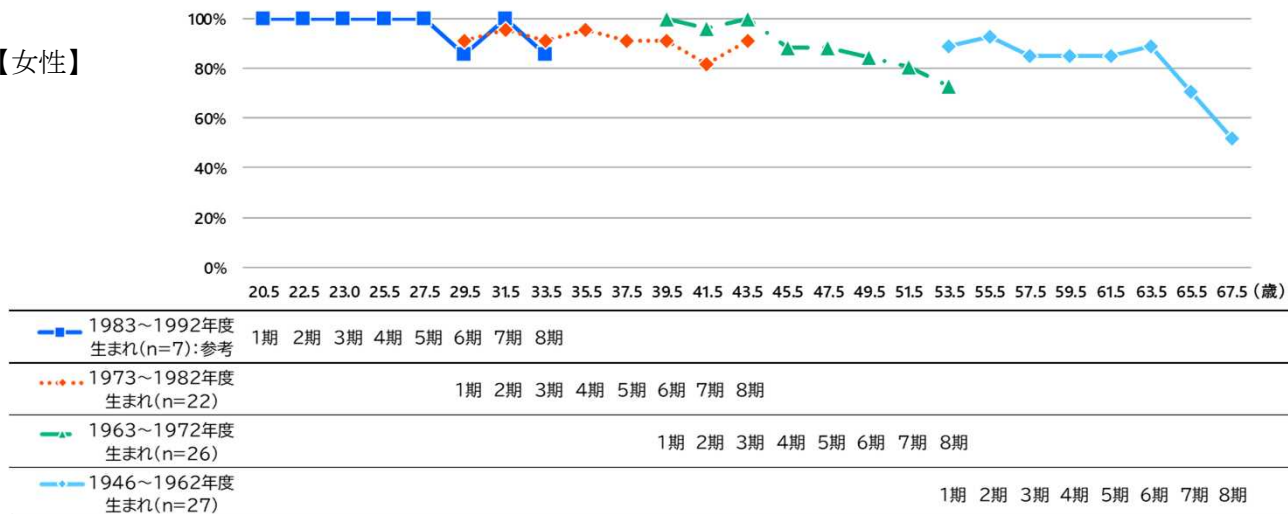
青色のバーは各調査期での年齢範囲を示します

就労率の推移

【男性】

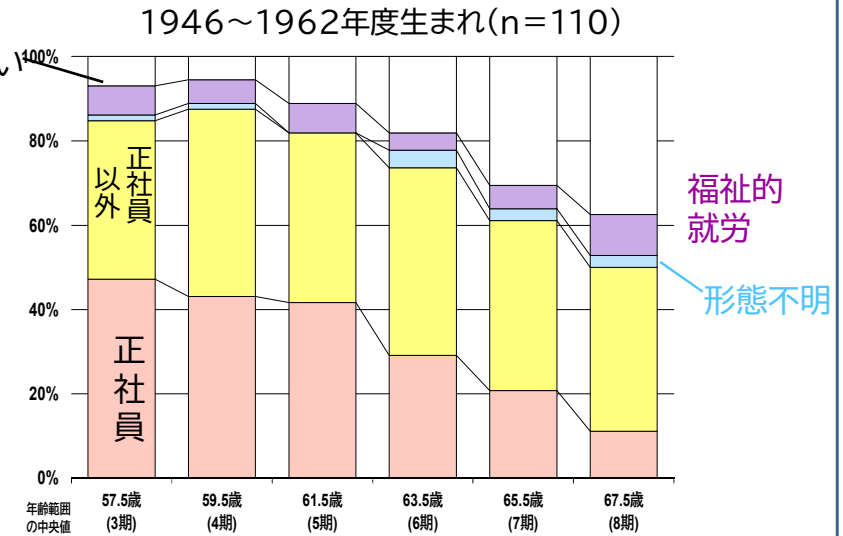
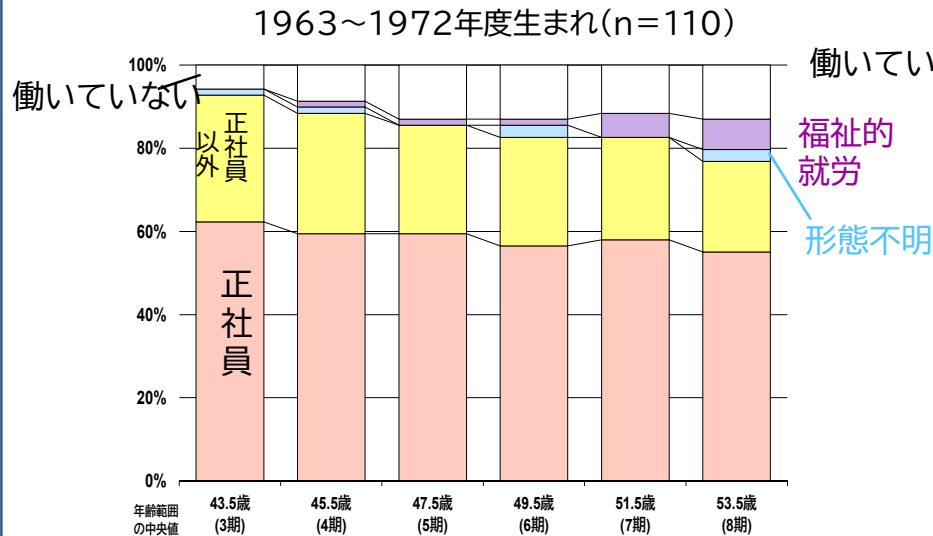
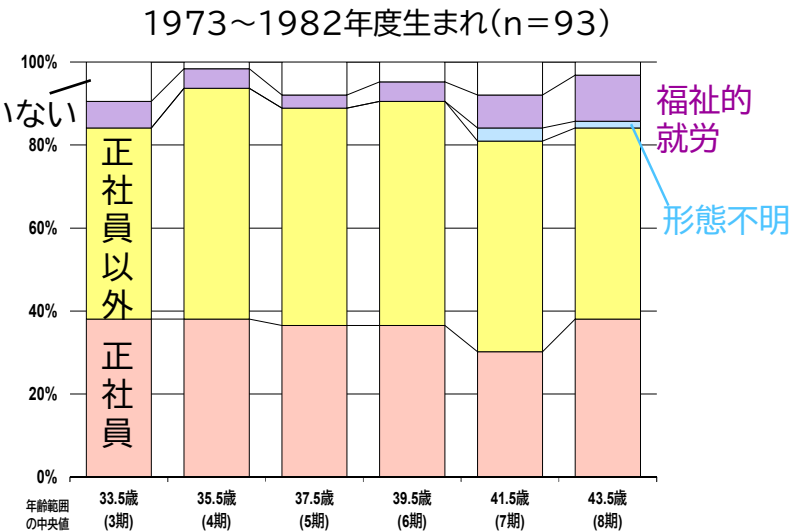
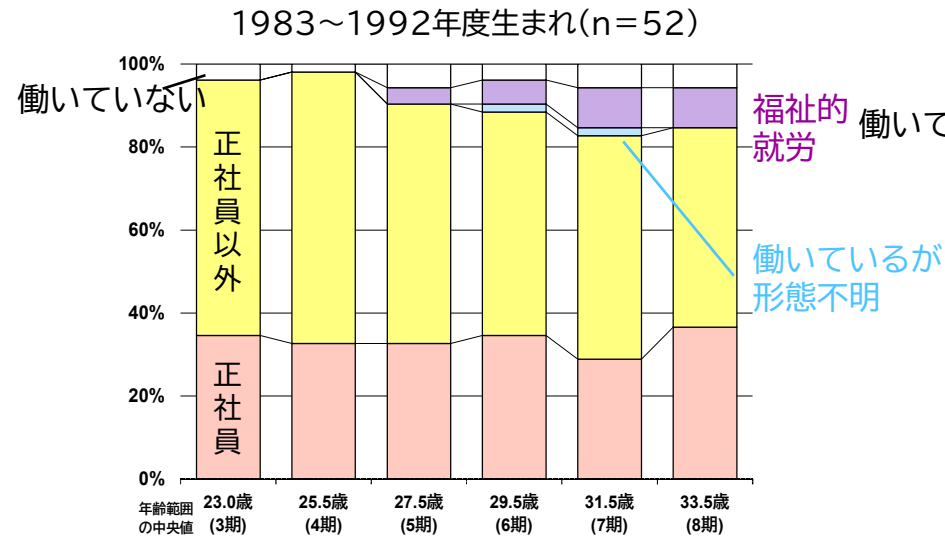


【女性】



4世代を重ね合わせた就労率の経時的変化（グラフ横軸は年齢範囲の中央値を示す）

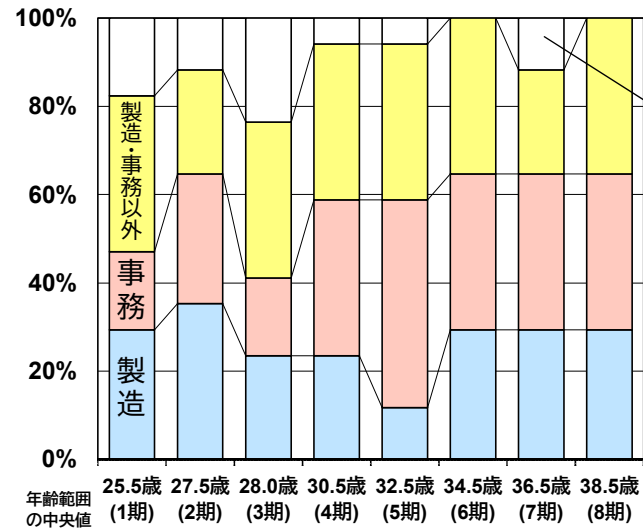
就業形態の推移



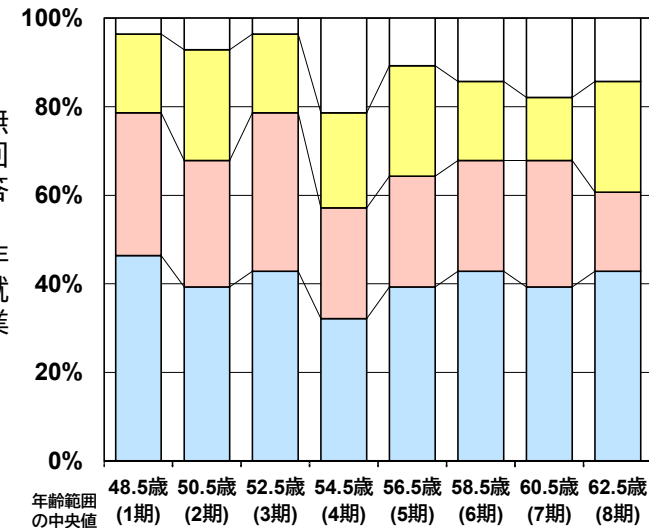
職種について（障害種類別の特徴） ここでは聴覚障害、知的障害について紹介

聴覚障害

1973～1992年度生まれ(n=17)

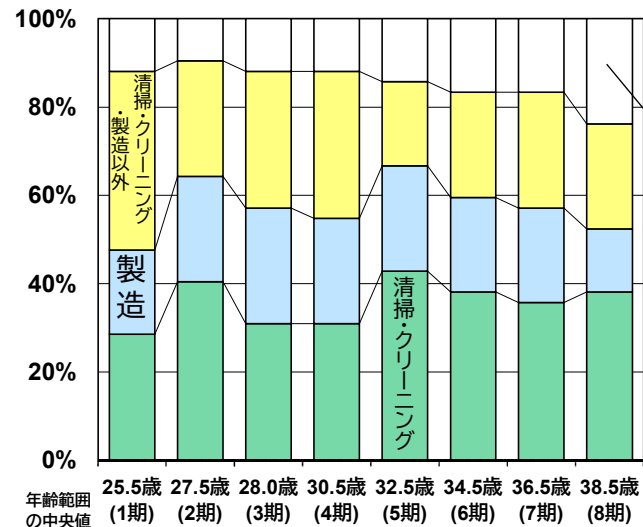


1946～1972年度生まれ(n=28)

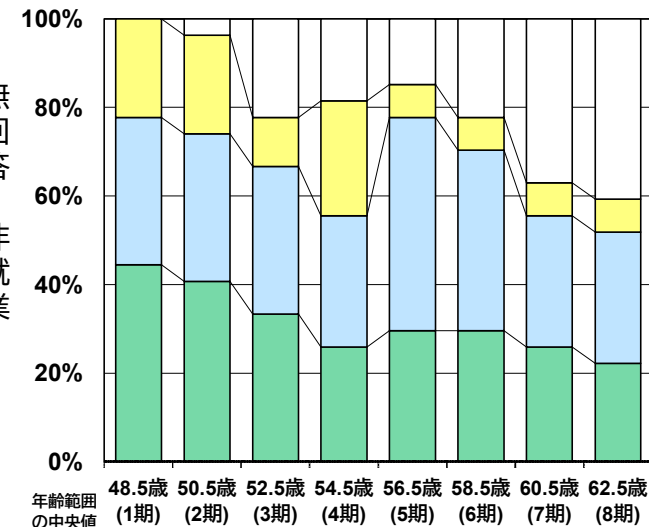


知的障害

1973～1992年度生まれ(n=42)



1946～1972年度生まれ(n=27)

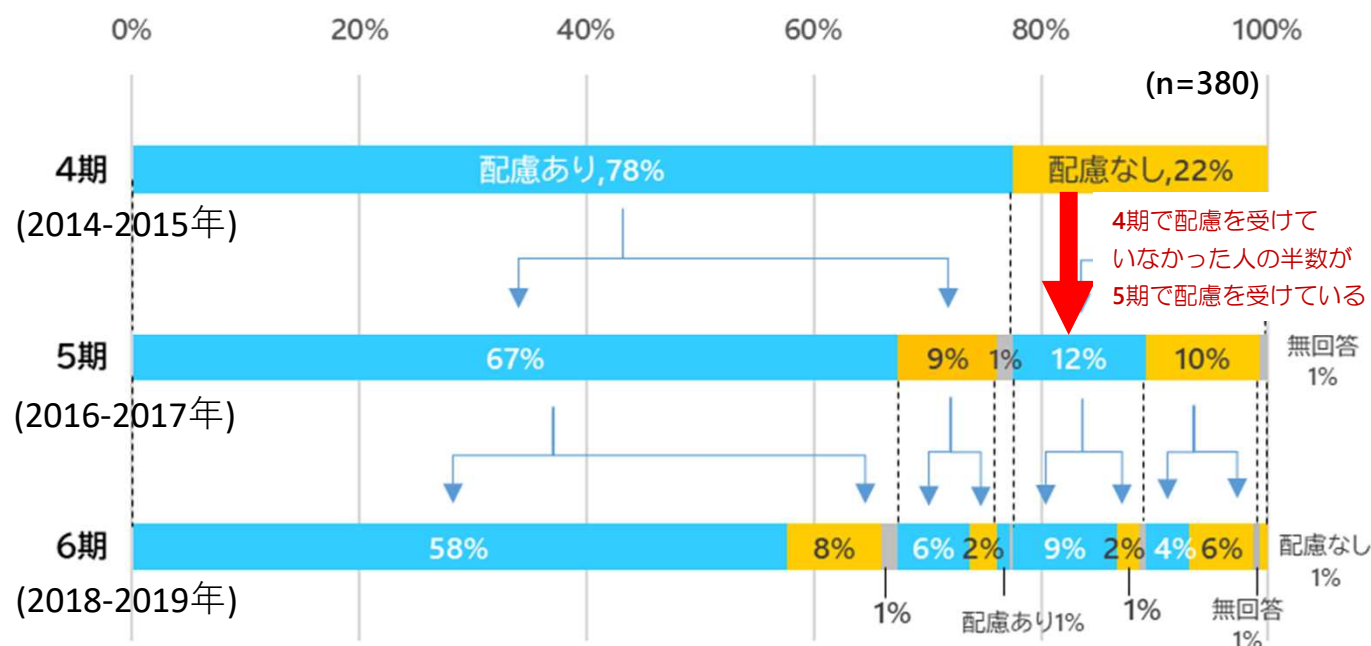


改正障害者雇用促進法（2016年施行）の影響

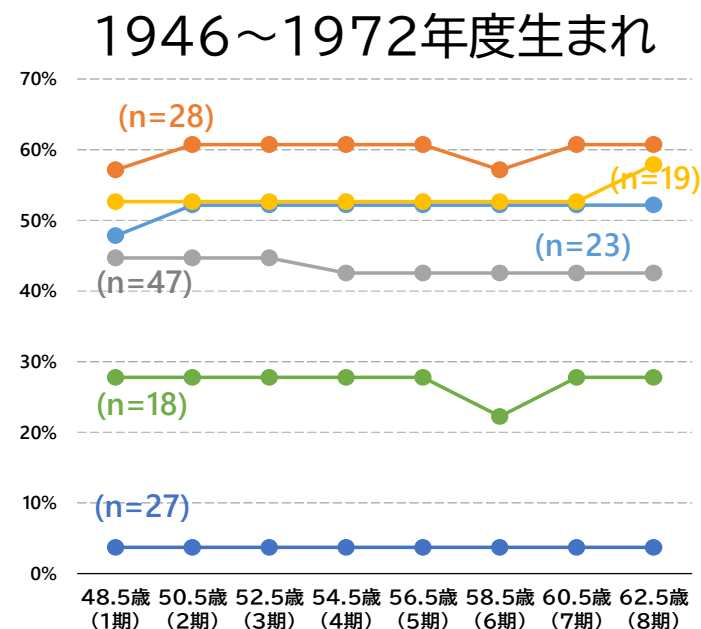
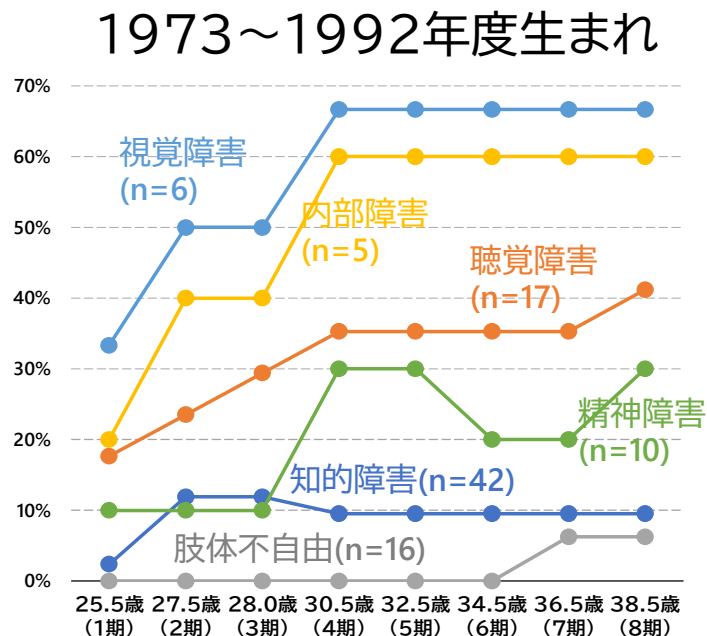
職場での「理解や配慮がある」と回答した人の割合

職場で実際に理解や配慮が得られていることについて、以下の選択肢からあてはまるものすべてを選んでもらった

- ①「作業手順の簡易化」②「作業速度・量の調整」③「機器・設備の改善」④「通勤の便宜」
⑤「援助者の配置」⑥「勤務時間・休憩の調整」⑦「安全・健康管理」⑧「その他」



ライフイベント（結婚している人の割合）



次の①又は②に該当する人を「結婚している人」としている

- ① 第1期において家族の状況(同居の有無を問わない)を尋ねる質問に対し「配偶者」(がいる)と回答
- ② 第2期から第8期において回答者や回答者の家族に起きた出来事を尋ねた質問に対し「自分が結婚をした」と回答（※「自分が離婚をした」と回答した場合は除く）

障害の重度化前後の配置転換の実施状況の変化の違い

44歳以下群

ID	t-1	t	t+1
D103	0	0	0
D114	0	0	0
D115	0	0	0
D116	0	0	0
D122	0	0	0
D130	0	0	0
D131	0	0	0
D132	0	0	0
D134	0	0	0
D141	0	0	0

配置転換を経験した人は 0

1	配置転換あり
0	配置転換なし

45歳以上群

ID	t-1	t	t+1
D155	1	1	
D163	1	1	
D154	1	0	1
D152	1	0	0
D162	0	1	1
D112	0	1	0
D165	0	1	0
D129	0	0	0
D144	0		
D149	0		
D151	0	0	0
D153	0	0	0
D161	0	0	0
D167	0	0	0
D168	0	0	0
D176	0	0	0
D179	0	0	0
D180	0	0	0
D181	0	0	0

重度化前「配置転換あり」4件
→ 重度化後「配置転換あり」3件

重度化前「配置転換なし」15件
→ 重度化後「配置転換あり」3件

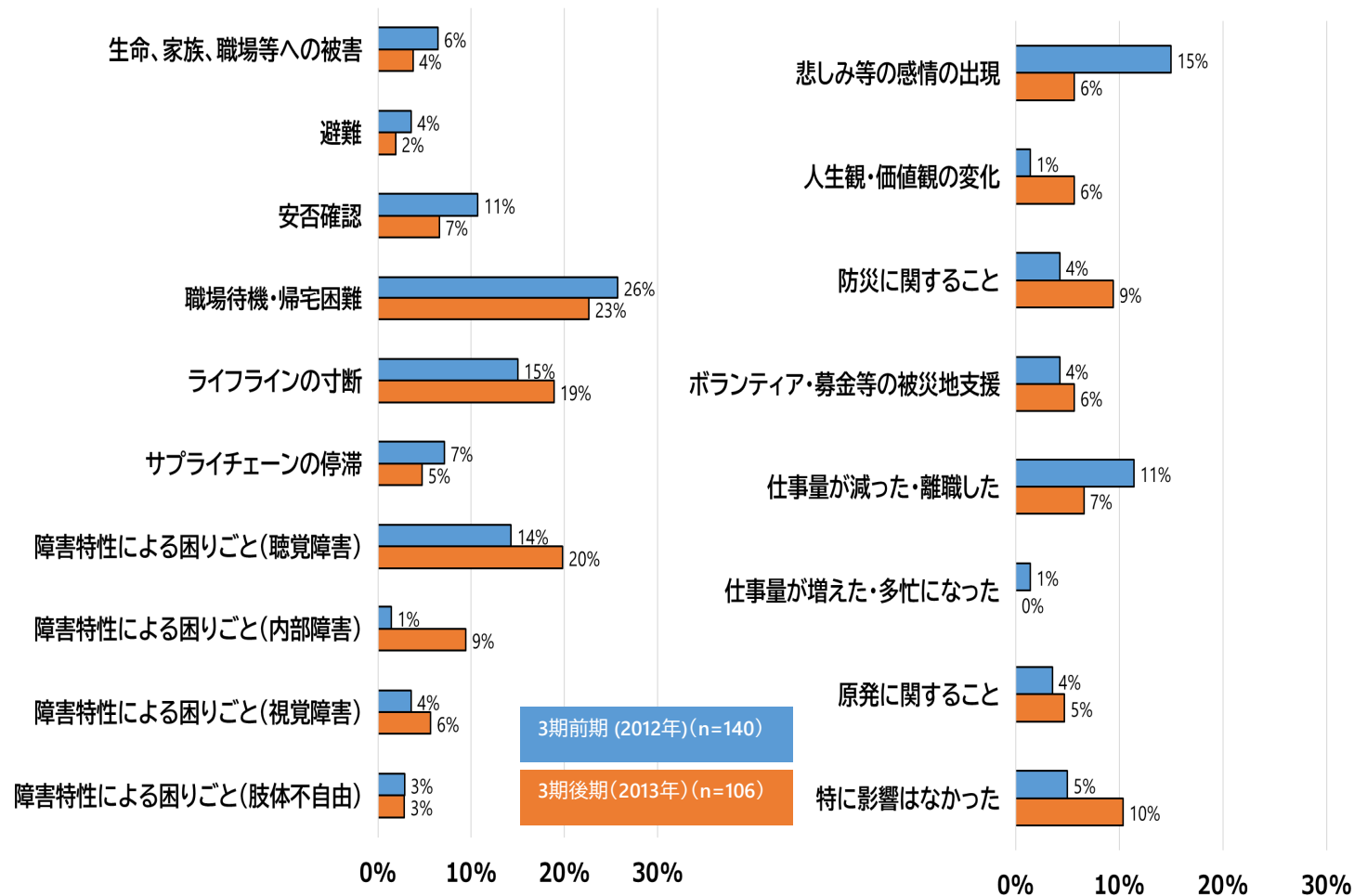
各分析対象者を行、調査期を列とするマトリクス：t-1期、t期（重度化を捉えた調査期）、t+1期の各調査期で
仕事上の出来事に関する質問に回答し、かつt-1期において就労していた者

44歳以下群（障害の重度化を捉えた調査期における年齢が44歳以下）：10件

45歳以上群（障害の重度化を捉えた調査期における年齢が45歳以上）：19件

東日本大震災（2011年）の影響

東日本大震災の影響に関する自由記述の分類



東日本大震災の影響 自由記述の一部抜粋

■ 避難

視覚障害	41歳	健常者職員は避難したが私は取り残されてしまった。また一人で帰宅したのですが、交通機関がマヒしていたりすごい混雑で怖かった。
聴覚障害	37歳	避難の誘導、聞えなかった。情報がわかりにくかった。計画停電の時、作業になるとき、上司の人と携帯メールで連絡した。
肢体不自由	22歳	6Fで仕事をしていたため、エレベーターが止まり、階段でかついでおろしてもらった。電動車いすは6Fにおきっぱなしにするしかなかった。

■ 安否確認

聴覚障害	23歳	携帯がつながらず、安否確認が出来なかった。
知的障害	33歳	かぞくにれんらくがつかなかったこと しょくばの人からかぞくにれんらくしてほしいかった。

東日本大震災の影響 自由記述の一部抜粋

■ 職場待機・帰宅困難

聴覚障害	41歳	電車も動いていない、帰ることができないと上司が教えてくれた。家族にメールで連絡したが、なかなか返事こない。不安だった。その日は会社に泊まり、翌朝自宅へ帰った。
内部障害	56歳	3/11(金)は15:00に退社し 人工透析へ行く日だったが、交通機関がすべて止まり、また、病院への連絡もできず、結局透析へ行くことができなかった。自宅へは歩いて帰り、着いたのは夜12時を回っていた。翌日、透析をやってもらうことができたがとても不安な1日だった。

■ ライフラインの寸断

視覚障害	50歳	計画停電(節電)のため街が暗くなった時は怖かったです。歩き慣れた駅が暗くなり階段を下りる際など...
視覚障害	52歳	震災後何週間かライフラインが止まってしまったこと。水を確保することが困難であったこと。
聴覚障害	49歳	ガソリン不足で自転車も活用しながら、「ガソリンスタンドが開いた」との地域情報が口コミで入ると補充していた。職場で聾の職員も多いので、できるだけ情報は共有するようにしたが、聴者間での口コミによる情報量とは桁違いに違うことがよくわかった。

新型コロナウイルス感染症の影響 自由記述の一部抜粋

■ 日常生活、体調や精神面への影響

視覚障害	57歳	友人関係:互いに時々あって励ましあっていたが、会うことができずつらい 日常:最低限の外出を心掛けるため、これまで以上に運動不足になった。
聴覚障害	60歳	集まることができなくなった。特に、手話で話せる場が、なくなった。手話サークルや行事の中止によって。
肢体不自由	52歳	リハビリを打ち切られた。
内部障害	53歳	透析で週3日通院しているが、集団(同じ部屋で治療)のため、すごく気を使う様になって、それがストレスになっている。
知的障害	36歳	遊びに行く場所を選んでいる。コロナの影響を考えて、行きたいけれど、我慢している。旅行も、行きたいけれど、我慢している。
知的障害	53歳	父母が老人ホーム型のマンションにいますがコロナで2年ぐらいあってません。友達と食事に行けなくなった。
精神障害	52歳	コロナ前は気にしていなかった、基本的な生活(うがい、手洗い、マスク着用、外出、外食、)を気にするようになった。すごく、敏感になり神経質に生活するようになった。

新型コロナウイルス感染症の影響 自由記述の一部抜粋

■ 仕事・コミュニケーションへの影響

視覚障害	58歳	仕事(マッサージ)の患者が減った。友人などとの交流が減った。
聴覚障害	47歳	臨時休業が増えた。賃金下がった。(職場で)コロナ感染者が出ていた。人員が不足なって忙しくなった。
肢体不自由	55歳	新型コロナウイルスに関係する職場であったため、仕事量が増えた。
知的障害	48歳	仕事の内容も時間も短くなってやる気がおきない。
精神障害	42歳	在宅勤務の導入、業務内容変更による体調悪化からの休職→退職。
聴覚障害	36歳	感染防止のため、会議では皆がマスクするようになり、参加しにくくなった。UDトークアプリを使用して参加するが誤字が多い。ネットに接続できなければ使えない。
聴覚障害	39歳	毎日マスク生活で、会話する時、普通のマスクだと読み取れなく、透明マスクにかえてくれて、会話が読み取れるようになりました。(仕事)

まとめ

■ 障害のある労働者の職業サイクル全般の単純集計

- 就労率は1946～1962年度生まれで第5期以降に低下
- 就業形態は1963～1972年度生まれでは正社員が多い
- 職種は障害種類ごとに世代別の変化が見られる場合とそうでない場合がある
- 2016年に「合理的配慮」の提供義務化等を内容とする改正障害者雇用促進法が施行され、施行前の第4期では「配慮なし」22%、そのうち約半数が施行された第5期に「配慮あり」に変化
- 結婚している人の割合は1973～1992年度生まれで第4期にかけて上昇

■ 中高年期における障害の重度化が働き方等に与える影響

- 中高年期において障害が重度化した場合、配置転換を経験しやすい

■ 大きな社会情勢の変化の影響についての分析

- 東日本大震災の発生により、生命を守り安全に避難するための移動や情報確保が困難
- 帰宅困難や電気・水・ガソリンの供給寸断への対応が困難
- サプライチェーンの停滞による休業の発生

考察

■ 障害のある労働者の職業サイクル全般の単純集計

- 世代別の経時的変化を追うことで障害者の職業サイクルの多様な様相を確認

■ 中高年期における障害の重度化が働き方等に与える影響

- 障害の重度化の前後で働き方や就労面の二ーズの変化を比較し、特徴的な配慮事項を確認

■ 大きな社会情勢の変化の影響についての分析

- 障害者が緊急時に取り残されないよう平時からの準備が必要であることを確認

【今後の課題】

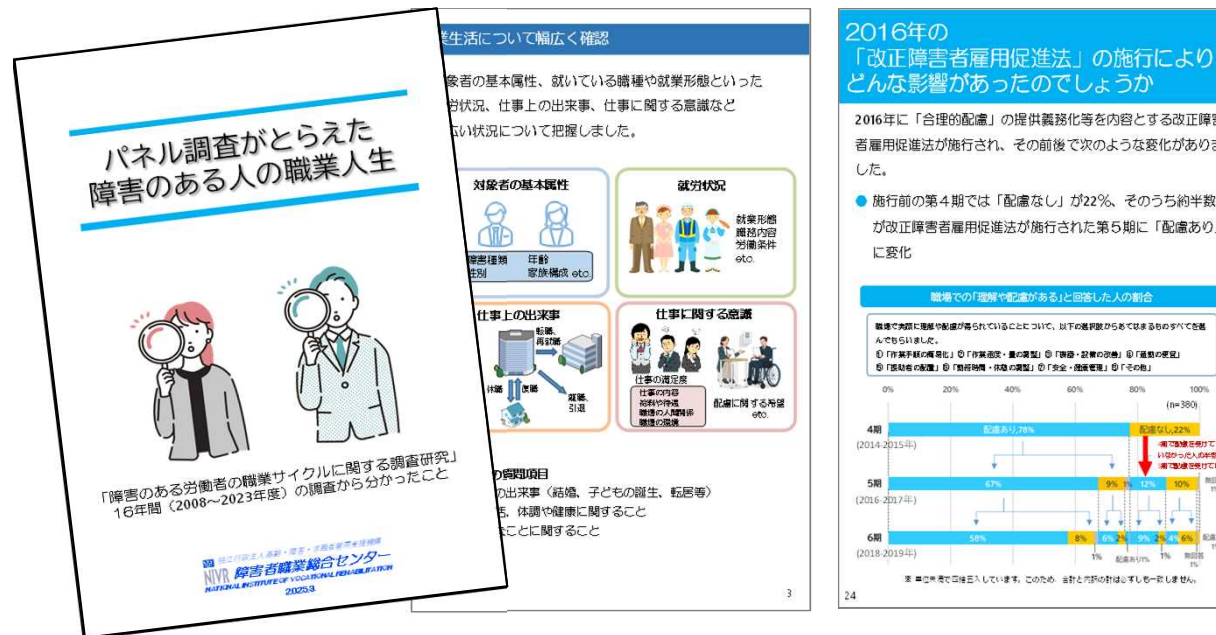
障害のある労働者の長期わたる職業生活の変化における個人要因（障害種類や性別・年齢等）や環境要因（家庭や職場環境の状況等）の影響及びそれらの相互作用の分析が必要



**障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究
全8期総合分析（令和7～8年度）**

関連する成果物

「パネル調査がとらえた障害のある人の職業人生」



(<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouzai/kyouzai84.html>)



- 本調査研究成果を分かりやすくまとめた啓発資料
- 行政機関をはじめとして、障害者関係団体、事業主関係団体及び事業主、就労支援機関等において活用されることが期待される